

# ねこの手

## タイムズ

No.23

これからのねこの手.....

### 3/7(土) みんなで料理 第2弾 美味しい春の先取り!

10時～15時(予定) 会場:中野区障害者福祉会館2階 調理実習室  
参加費:500円(お昼代として) ◎2/25(水)までにお申し込みください



【参加申込、問い合わせ】NPOねこの手事務局(担当:奥野、小高)

E-mail アドレス [npo\\_nekonote\\_il@yahoo.co.jp](mailto:npo_nekonote_il@yahoo.co.jp) 電話・FAX 番号 03-3360-4461

### 4/19 みんなで音楽 第11弾



今回のテーマは『みんなで唄おう! 愛、恋、夢』

これまで同様、みんなで歌って踊って楽しめる場にしたいです。  
ぜひ、遊びに来てください。。。

### 5/16、17日(土・日) 重度訪問研修(1回目)

会場:スマイル4階多目的室 23日、実習予定。  
{9月5日、6日(2回目) 12日、実習予定。}



今年もよろしくお祈いします。

NPO法人ねこの手は12年目を迎えます。はじめは常勤2人でした。経験も知識もなく、全てが初めてのことばかりでした。徐々に職員もヘルパーも利用者の方も増えて現在のようになりました。

最近、終活(人生の終わりのための活動)を始めようと昔書類を整理しかけました。なかなか捨てられない!!! 2000年前後のCIL準備会(ねこの手の前身)で作った介助者募集のチラシが出てきました。「このころも、こんなことやっていたんだ～」と思い、「今はヘルパー募集に」変わっているけれど・・・結局、同じことをやっているのね。わたしたち・・・。制度は何度変わっても国が十分なヘルパーを確保してくれるわけでもないから・・・

来る、超ヘルパー不足の時代に備え、地域で生きたい障害者の生活を守れるよう、新たな戦略を始動できればと思います。

どうぞ、皆さんも一緒にお祈いします。

NPO法人ねこの手 代表;片岡君子

# みんなで工作！！第2弾 ～ダンボールで手織り～



今回は、このサイズですが巻く毛糸、段ボールの大きさを変えれば、玄関マットなども出来るそうです。

「ダンボールで手織り」と聞いて最初に思ったのが、細く切ったダンボールを編みこむことでした。

私、池田は、手芸の類はジグソーパズル（手芸じゃない？）とビーズの暖簾をやったことがあるくらいで、本当に手芸とは縁遠い存在です。そんな人間がこの取材をしようとは（苦笑）。

今回集まったのは、ボランティアを含め総勢20人ほどです。まずはそれぞれ自己紹介。ボランティアで集まった人の多くは、「楽しみにしていた」と話していました。

講師の先生の指導の下、3本の毛糸をダンボールに巻きつけた縦糸に編み込んで行く作業は、上肢に障害がある私にとっては、かなり困難なものでした。学生するとき、上級生が小さい手織り機でコースターを作っていたのを見て「やってみたい」と思っていたのですが、私にはこれほど大変な作業だったことを知りました。ボランティアの方に手伝ってもらいながら、何とか毛糸一本は出来たものの、細かい作業と緊張で肩が痛くなりそこで断念しました。

他の方はかなり楽しまれたようです。報告会では、「このまま続けていきたい」という声も多く聞かれました。ある方は、先生に楽な方法として「1本おきの縦糸に別の糸で輪を作り、そこに棒を引っ掛けて持ち上げ、横糸を通していく」という手織り独自の方法を伝授され、実践する人もいました。それでも大変だったようですが・・・。

普段は見向きもしない、機会がなければ出来ない経験をすることも大事だなと思わされた、このイベント「みんなで工作」は、ぜひ続けていただきたいと思います。

（文責 池田みのる）



# お邪魔しま〜す！ (=^・^=)

このコーナーは、取材担当・池田が色々なところにお邪魔し、お話を聞いて、目で見、感じたことを記事にしていきたいと思います。

今回お邪魔するのは、「アシストセンター・ねこの手」です。

たった1日では何も分からないだろうということで、取材期間は2日間。日程も厳しい中で対人の取材は初という状況の池田が、多少不安もありながら依頼してみると、あっさりOKしていただきました m(\_)\_m。。

第一日目：2/4（水）

明日は雪だ、という予報が出ていたこの日、私は千葉の家を朝7時に出発し事務所にやってきました。ねこの手の事務所は、アシストセンター（以後AC）とIL部門が共同で使っています。音楽会の打ち合わせなどもここで行うので、ある意味もう通り慣れたところでもあります。ACの管理者、枝川さんをはじめ、ACで働くヘルパーの皆さんも顔馴染みが多いです。話しやすい反面、何をどう聞こうかと迷っていました。



約束の9時30分に事務所に着くと、もう忙しく働いていました。書類の整理や会計事務、その他やることはいくらかもあるんだろうと思います。「一日が24時間では足りない」とはよく言ったものです（笑）

少し経つと人が増えてきました。NPOの理事である佐藤さんと渡辺さざれさんです。会議のようで、私は座っていたソファを空け、別の場所で見学していました。枝川さん、田中さんも参加して会議が始まりました。耳を傾けてみると、議題は「ヘルパーの就労規則」のようです。普段ヘルパーが仕事をしている姿しか見ていないし、裏側に何があるのか考えもしなかったので「こんなことも考えなきゃいけないんだ、運営する側は大変なんだなあ。」と思い知らされました。



会議が終わり、さざれさんがおいしそうな手作りのお弁当を広げていました。前日にヘルパーが作ってくれたおかずだそうです。「昨日は料理が得意なヘルパーさんだったからお願いした」そうです。苦手なヘルパーもいるので、その時はお願いしないそうです。私も同様にヘルパーによってお願い事を変えています。でも食事は毎日のことなので得手、不得手関係なく頼んでますが・・・。

14時30分ごろから1時間ほど枝川さんとお話することが出来ました。私と同年齢だそうです。（以前にも聞いたことあったけど忘れてた(^\_^;)）こんな質問をぶつけてみました。

●ACとして困ることはありますか？

ヘルパーに対する仕事を利用者が都合のいいように拡大解釈されるのが困る。でも仕方ない部分もあるのかなとも思う。例えば背中を掻いてほしいときに掻いてもらえず、「明日掻きます」などと言われても困るだろうし・・・。（NPOを立ち上げた人たちが）必要だと思った時に動ける（派遣できる）体制を作っておくというのがACの元々の考え方なので・・・。



## ●ヘルパーの確保について

最初は、重度訪問の研修で集まってくれていたのだが、段々集まらなくなってきた。ハローワークにも求人を出してみたし、折込の求人広告にも「未経験者歓迎」で掲載してみた。そうしたら本当に未経験者ばかり来てしまって、困った。以前（制度がないころ）はそれなりに思い入れがある人がヘルパーをやってくれていたと思うが、制度が出来て仕事として確立すると色々な人が仕事をするようになるので適当にやる人が出てきた。仕事がないとヘルパーが別の会社に行ってしまうので工夫し、確保に努めているが難しい。

## ●ACのイベント（昨年度開催）について

初めは、児童の利用者さんとその保護者の方の意見とACの提案で、「公園へ行こう」から始まった。紆余曲折があり、「カレーを作ろう」になった。（ボランティアの入り口としては「公園へ行こう」の方が良さそうだが…。「100人来て1人残ってくれたらいいな」くらいの心構えだったので……。ヘルパー離れが深刻化している時なのでどんな形でもやりたかった。実際に、あのときに来てくれた女の子が今、一生懸命仕事をしている。最初は成功したが、今後につなげていきたいと思う。

## ●これからの抱負

利用者もヘルパーも平等に年齢を重ねているのでそれなりに大変になってきている。一部のヘルパーに負担をかけているのでそれを解消したい。ただ人員のストックは置いておけないので、それが悩むところ。この仕事は臨機応変に対応できる「人」が命の部分があるので、血の通った介助、介護ができるようにしていきたい。

この日は、これで終了。枝川さんは仕事に向かった。僕はこの後、音楽イベントの打ち合わせだ……。

## 第二日目：2/10（火）

前日この記事をまとめていました。夜中2時まで起きていて気づいたら、7時半でした（汗）。慌てて準備して事務所に向かいました。（いま住んでいる所から電車で1時間半かかります(>\_<))

事務所に着くと、かなり人が集まっていました。どうやら先週の「ヘルパーの就労規則」の会議の具体化だそうです。「変形労働時間制」というのを導入するのだそうです。法律に詳しい理事の鎌田さんも加わって打ち合わせをされていました。私はACで働くヘルパーにもインタビューすることにしました。

田中チェさん：（ACで働いて何年かは忘れたけど、枝川さんより短い。）

## ●どんな仕事をしていますか？

サービス提供責任者とヘルパー。サービス提供責任者とは利用者とヘルパーをつなぐコーディネーターの役割がある。

## ●大変なことはありますか？

やはり女性のヘルパー不足。「ACねこの手」は同姓介助が基本。でも女性ヘルパーは男性利用者に入れるが、男性ヘルパーは女性利用者には入れないのでそれなりの人数が必要だが確保が大変。

## ●ヘルパーは腰を痛めるとよく聞くが、その時の対処方法はありますか？

接骨院に行く。でもそれだけでは良くなる。基本の介助動作をきっちりする、それに尽きると思う。

## ●ヘルパーとしてうれしかったことはありますか？

たくさんある。意思疎通が難しい利用者さんと上手に会話が出来たとき。利用者さんに「ありがとう」を言われたときも嬉しい。「嬉しいことが多いこと」がこの仕事を長く続ける秘訣だと思う。

## ●逆に悲しかったことは？

利用者さんの言われた通りに作った料理が、「おいしくない」と言われたとき。（書くなと言われたけど、あえて書きます。）あとは、自分の行為を思いとは違うようにとられたときかな？

●サービス提供責任者として失敗したことはありますか？

たくさんある。でも失敗して学ぶこともあるので、「とりあえずやってみないといけない」と思っている。

最後に、老人介護のヘルパー事業所でもヘルパーをされていたということなので「老人介護と障害者介助の違い」について聞いてみました。「老人介護は、事業所が作成した介護計画に則る。汚れているところがあったとしても、手をつけてはダメ。障害者介助の場合、時間内なら何をしてもOK。それが大きな違い。」と教えてくれました。田中さんに促されて、今度は利用者の立場で聞いてみようと思いました。

ちょうど事務所に来ていたKさん、Oさんに伺いました。

●ACのヘルパーを使ってみて、どうですか？（質問が漠然としていてごめんなさい(/ω＼)）

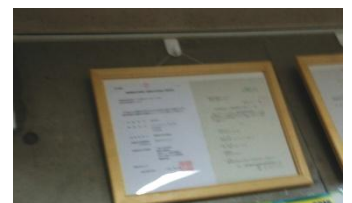
◇ 若いヘルパーが多くて良い。（男性でも女性利用者でも若いヘルパーの方が良いのかな？と池田は思いましたが、違う内容だったらごめんなさい m( )m）（Kさん）

◇ ACのヘルパーさんは色々な経験をしているし、色々な知識も持っていていつも勉強になります。これからもよろしくお付き合いください。（Oさん）（これはメッセージですね。!(^^)!

まとめると、お二人ともヘルパーを利用することで視野が広がっているってことでいいでしょうかね！

最後に30分ほど、枝川さんにお話を聞くことが出来ました。その中のお話で「コミュニケーションが不自由な利用者は大変だと思う」という話がありました。「伝えたくても伝わらず、聞きたくても聞けないというのは、利用者にもヘルパーにもストレスがかなりかかるだろうと思う。そのような利用者の場合、限られた一部のヘルパーしか派遣できないので調整が難しい。」と話していました。

もう一つ、質問してみました。「ACから千葉市にヘルパーを派遣できるのか?」。答えは「経営規約を変えれば派遣できる」。でもそこには問題もあるそうで、交通費。それから千葉市のリストに「ACねこの手」が載ってしまうことになるので、もし仕事依頼が来てもあまり受けられないから困る、ということでした。



ヘルパー事業所の認定証

これがないと出来ません。

ACにも、もちろんありました。

今回の取材はここで終了。この取材を通して、ヘルパーが現場で仕事をするまでには色々あるのだなと思いました。私も「自立生活をしている障害者」の一人なので、この取材で感じたことを心に留めておきたいと思います。



最後にこの取材に協力して下さった方々、本当にありがとうございました。

（文責 池田みのる）

# S.W.コラム

日々通っている駅やスーパーマーケットへの道で…曲がる角をかえたりしながら、草木の四季を楽しんでいます。先月には黄色い花がスキッとした芳香を放っていた蠟梅は散って、紅白の梅が甘い香りを漂わせています。

足下に目をやれば、アスファルトの切れ目や人家の生け垣の根元に、もう雑草が小さな葉っぱを地面に広げています。よく見ると春の七草のハコベラやホトケノザも。そう、旧暦の正月ですものね。

車イスは視点が低いので、路傍観察には“もってこい”なのです。



ホトケノザ

(by S.W).

## 編集後記

東京では雪が降った2/1。私が住む千葉では雨でした。取材で事務所に来た時、まだ路肩に雪が残っていて「東京より千葉の方がまだ暖かいのだなあ」と思い、「ところ変われば」という言葉が思い浮かびました。皆さんも一度千葉に遊びに来てください。房総の方は今、花で満開です！！



### 房総には、もう咲いているであろう菜の花とキンギョソウ（右）

今回も、ギリギリの編集期間になってしまいました。運営委員の皆さん、すみませんでした。

m( )m

次回はもっと早く編集が終わり、確認してもらえるよう頑張ります！！

(理事長、首を切らないでね(^\_-)☆)

発行：特定非営利法人 ねこの手

〒164-0003

東京都中野区東中野 1-38-12 コーポ光 101号

Tel/Fax 03-3360-4461

e-mail [npo\\_nekonote@yahoo.co.jp](mailto:npo_nekonote@yahoo.co.jp)

発行日：2014/12/22

編集担当：かたおか きみこ

いけだ みのる